

IoT・5G・AIなど、最新のテクノロジーにより私たちの日々の生活がどんどん便利になっていきます。このような技術革新を支えるためになくてはならないものが電子部品です。今回は、電子部品業界の動向についてお伝えします。

電子部品業界動向

近年、業界をけん引してきたスマホ需要ですが、世界的な需要の一段落が見られ、伸び率は鈍化傾向に、収益性も低下傾向にあります。一方で、IoT、5G関連の基地局やデータセンター、工場のオートメーション化、自動運転関連など今まで以上に電子部品のニーズが増えてきています。今後もこうした次世代通信の需要はさらに拡大するものとみられ、電子部品業界に大きな追い風となっています。

日本企業が強い

電子部品は電子機器に搭載されているさまざまな部品を指し中身は多岐に渡ります。コンデンサーやインダクター、スイッチやコネクタ、モーター、センサーなどがありますが特徴的なのは日本の企業のシェアの高さです。半導体やディスプレイなどでは、中国、韓国、台湾のメーカーの勢いに押されて日本勢はシェアを落としましたが、電子部品で言えば依然高いシェアを誇ります。JEITA(電子情報技術産業協会)によりますと、2022年の日系企業の生産額のシェアは34%の見込みです。高い技術力が世界の需要を取り込んでいると言えます。

脱炭素とデジタル化の追い風

ここにきて電子部品には追い風が吹いています。それは脱炭素とデジタル化です。代表的なものがMLCC(積層セラミックコンデンサ)です。脱炭素の流れを受けてEV=電気自動車の普及が急速に進み、運転支援システムなど車の電装化も加速しています。こうした中、電気の流れを安定化させるMLCCは自動車により多く搭載されるようになってきています。今後自動運転に対応するEVになると、従来の車の約3倍ほどの搭載量になるとの見方もあります。MLCCだけではありません。EVが普及していくと、モーターや電源、充電用のプラグなどの需要も高まります。コロナ禍で社会のデジタル化も進んだことも電子部品業界の追い風になりました。クラウドサービスが普及するなどしてデータ量が增大しています。世界各地でデータセンターが新設されておりデータセンター向けの電子部品の需要も伸びています。

スマホ減速で不透明感も

中長期的には市場の伸びが見込める電子部品業界ですが、ここにきて不透明感も出ています。その要因は電子部品が多く使われるスマートフォンやパソコンの出荷の低迷です。中国のロックダウンや景気減速に加えインフレもあって世界的に消費者心理が落ち込み中国系のメーカーを中心に販売が振るわない状況が続いています。スマホなどの出荷低迷はもうしばらく続くとの見方が出ていますが、こうした中でも日本のメーカーは積極的な投資を続けています。代表的な電子部品のMLCCを例にとりますと、村田製作所、TDK、太陽誘電や京セラも生産能力の拡大に乗り出しているようです。短期的な市場の変化にとらわれず中長期の視点で着実に投資を続けられるかどうか各社の今後を左右すると言えそうです。

自動車・産業用機器業界では今でも半導体の供給不足が続いていますが、電子部品市場は今後も電子機器や自動車の高性能・高性能化や新興国市場も含めた普及拡大により継続的な市場拡大が予想されています。2023年も逼迫した状態が続くとの予測もありますので、長期化を見据えた対応が必要と考えます。

その他

半導体受託生産の世界最大手、TSMC(台湾積体回路製造)が熊本県で新工場の建設を進めるなか、九州で半導体関連の投資が相次いでいます。ソニーグループ、京セラ、東京エレクトロン、三菱電機や関連した企業が新棟建設や工場用地の取得などで事業拡大を進めており、かつて「シリコンアイランド」と呼ばれた九州の半導体産業が勢いを取り戻しつつあるようです。